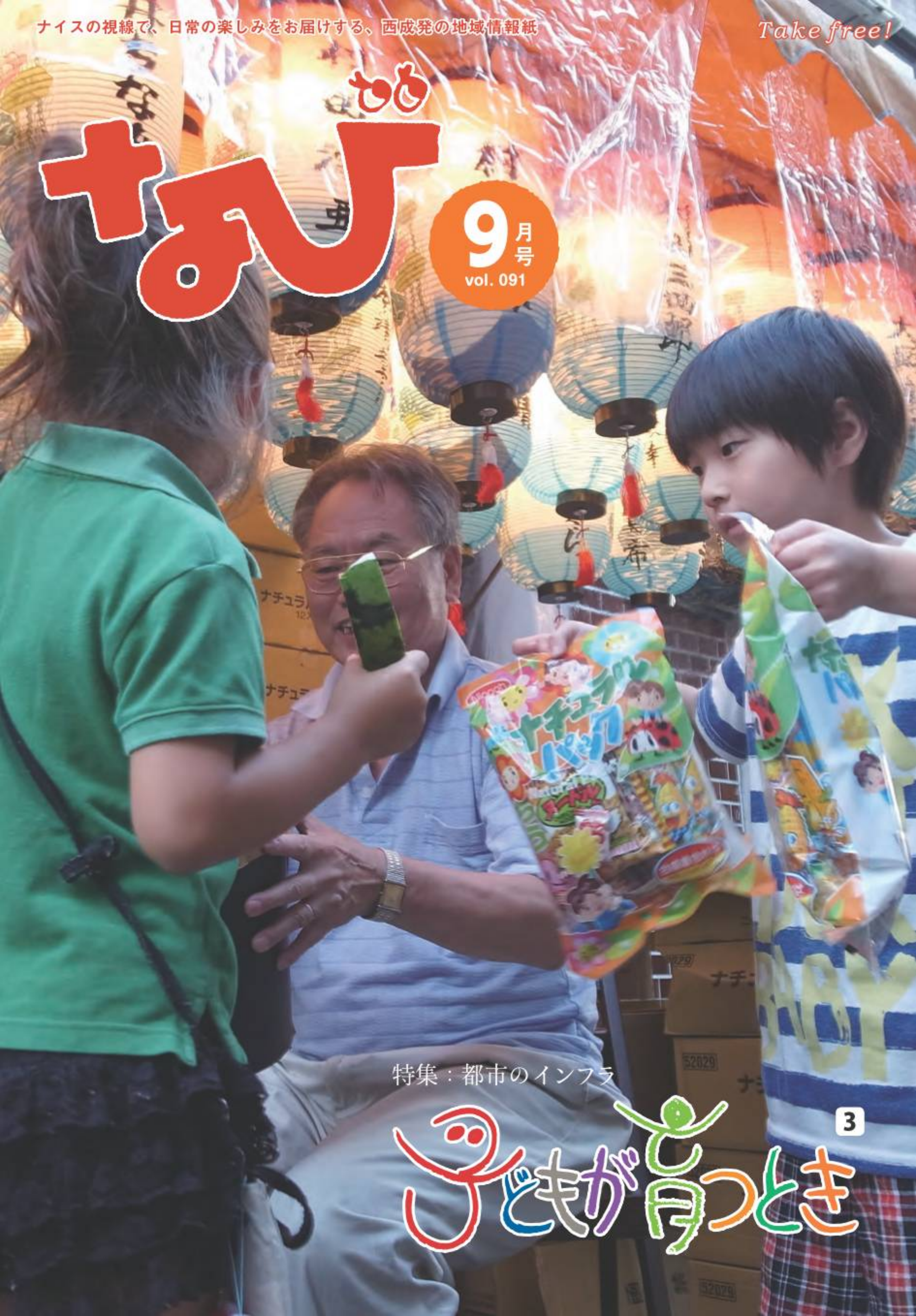
ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なにわ

9月号
vol. 091



特集：都市のインフラ

子どもが育つとき

3

特集：都市のインフラ

子どもが育つとき

3

子どもたちが毎日のように暮らし、遊び、そして見て、触れて、感じているまち。そこでの教育や福祉、あるいは地域活動など、いくつかの取り組みについて大人たちの視点で、前回、前々回の特集で切り取ってみました。次は、それら「子どもたちが育つとき」につながる多様な動きの舞台となる「まちそのもの」を、子どもらがどう捉えているのか？この素朴な疑問を掘り下げてみます。

そんな子どもとまちとの関係は、いろいろと語られてきました。その場面は各地での実践から垣間見ることができますが、ちょっとネットを検索するだけでもそのさわりは伝わってきます。例えば「子どものまちづくりへの参加」を保障する権利を盛り込んだニセコ町の『まちづくり基本条例』。札幌市での社会科の地域教材としての『子どもまちづくり手引書』。自分たちのまちについて考えるきっかけを提供するワークショップ『ふじさわこどもまちづくり会議』などずらりと。そんな事例もヒントに、今回は子どもたちと地図づくりをしながら、子どもがそのような「動き」のなかで、どのように「まち」を見て、触れて、感じているのか？その手がかりをキャッチしてみたいと思います。

子どもたちが切り取るまち

例えば地域と子どもの関係性をはかる指標は、これだというものはないと思う。それは漠然としているが、幅広いテーマで登場する「まちづくり」のようなものであろう。そこには、福祉、教育、遊びや体験など、「子どもが育つとき」に関わる場面につなぎとめる「のりしろ」のような役割がある。そう感じたのは、前回の特集にお話いただいた、一ひねり加えた存在感のある地域の人たちの話を聞いたときだ。子どもになつかれるようなお店、街頭に笑い声が響きわたる紙芝居、遊びを通じた居場所づくり、学校のいつもの授業とは違う大切なものを伝える人形劇など、それぞれ日常とはちょっと違う体験を自然と提供することで、まちを面白くする大人たちがいるのを感じた。一般的なハードのまちづくりとは違う、動きを広げてつなげていくことも、地域を元気にする。そんなことを思い、子どもたちが実際どのような目線でまちを感じているのか？ふと見てみたくなり、子どもとまちに出て、歩き、表現する地図づくりをやってみた。

今回は子どもたちと、近所のちょっと気になる場所やまちでの出来事、思い出などを、写真に撮って大きなマップに落とし込んでいく遊びをしてみた。場所は西成区と阿倍野区のほぼ境目に位置する共立通のギャラリー「あべのま」。この夏限定で駄菓子屋「ひるのま」を開いており、ちょうど夏休みの子どもたちが寄り道する場所にもなっている。ただの駄菓子屋ではなく、工作や料理のワークショップなど、ちょっとしたチャレンジが詰まった不思議な場所だ。そんな前回とも通じるかもしれない、まちを面白くする仕掛けをしている「あべのま」を基地に選んだ。

子どもがとらえたまちの一面

前置きが長くなったが、やることは簡単に、シンプルに。その日、たまたま遊びに来てくれた子どもに、何か面白いものとか気になった場所を撮ってきて！とカメラを渡し、その写真をすぐプリントして地図にしてもらうだけ。遊びの延長線上で、子どもたちが近所で見て感じたものを表現してもらうことにした。ここでは一人の小学3年生の女の子が描いた地図を紹介したい。

何を撮影してくるのか、わくわくしながら待っていると、まず単純な感想だが、やはり大人とは違うものを見つけてくる。例えば工事現場で警備をしていたおじさんと、その隣に置かれた今にも倒れそうな水筒。確かに、気になる。でも何気なさは半端なく、これを撮影しようと思うところまでは、自分ではなかなか至らない。他にも、よく遊ぶ公園のジャングルジムから飛び降りるのが好きということで、カメラを片手にその瞬間にシャッターを押したという、大変ぶれた写真を嬉しそうに見せてくれた。レンズを向けた対象ではなく、その場で体験している出来事が、まちでの印象になっている気がした。他にも、かわいい犬や、カラフルな壁面など、目に飛び込んでくるものを次々に撮りだめてくれた。

続いて、プリントした写真をならべながら、白紙の大きな模造紙にまちの記憶をたどりながら地図におこしてみる。パズルのように、道も建物も全て記憶をもとに描いていくと、印象の濃淡が出てくる。まず描かれたのは近くの大きな通りと、ショッピングモール。多くの子どもにとっ

ては、きれいなお店と無数の商品がならぶショッピングモールは、共通の話題であり、日常のフィールドなのだろう。次に、その大きな通りから下ったところに、一本の細い道を描く。その先に、今回の地図づくりの拠点「あべのま」を描き、自分の顔を撮った写真を置いてスタート地点とした。そこからはぐいぐいと先ほど見つけてきた出来事をつなげていく。だいたいの位置関係は一致しているが、そんなのは適当で、とにかく気づいたこと、感じたことを並べていく。逆に、子どもにとっての面白さが、自分からの距離を縮めているような、一枚の大きな地図ができあがった。いつもの曲がり角で出会った犬の名前を聞いたことや、近くの神社で願いごとを考えたこと、「あべのま」で手打ちそばをしたことなど、ちょっとしたまち探検から、いくつものストーリーが浮かび上がってきた。地図に描かれたタイトルは『味が出てくる絵本』。そのストーリーのさわりは、「ぼうけんをしに行った。Aちゃんは、犬に出会って、いろいろなたびをはじめ、人々となかよくなった…。」と、無限に広がっていく。まちで感じたことを地図上で表現することで、ほんの少し子どもたちが普段から見ているまちが浮かび上がってきた。

まちで遊び、まちを学ぶ

今回は子どもたちと、地図づくりをやってみた。そのもう一つのきっかけに、子どもたちを対象にしたまちを楽しみ学ぶワークショップの経験がある。例えば、こんなのをした。いろんな視点で自分たちのまちを歩いて、そこでの発見を地図や壁新聞、まち模型などにまとめる。5、6人のグループをつくり、建物をテーマに子どもが見ているまちの風景を写真で集めてみる。1時間ほど探検し、1時間ほどで模造紙に発見したものをマップや付箋、カードなどを使い共同作業でまとめ、発表していく。みんなが普段、感じていたまちが浮かび上がってくる。他にも、自然や歴史、遊び場や道や店など、まちから読み取れるもの全てが題材になる。それを模造紙にマップに模型にと、みんなでカタチにしていく。自分たちのまちをもっと身近に学んでもらうためのプログラムである。

他にも、夏の楽しかったことなどを巨大なキャンパスに、自由に絵具で描きながら子どもたちの大切な思い出を地図で表現しながらコミュニケーションを引き出すもの。商店街で、通りがかりの子どもたちが身近なお店をスナップ的に取材しながら、地域の子どもと大人の距離を縮めるもの。小学生から中学生まで幅広いメンバーが協力しながらまちの魅力を集めて、まちと自分たちの自信につなげていくものなど、地域も変われば、テーマも変わる。共通するのは、子どもたちが主役になって、まちを見ること。それを通じて、地域との関係性や、まちづくりのチカラを育てていくきっかけにしている。

動きを生み出し、動きをつなぐ

これら一つひとつは、子どもたちが見るまちを知る小さなチャンスである。今回は細かくプログラムはせず、自然体で子どもたちの見るまちの情報をキャッチしてみたく、遊びの延長線上を意識した。よりスナップ的に、よりストリート的に、子どもたちの見ているまちが伝わってくる場面が増えれば、地域と子ども、大人と子どもの距離を近づけるきっかけになる。それが、子どもたちが育つ場面につなげるための「のりしろ」になるのではないだろうか。そんなことを思い、気軽にできるカタチでやってみた。

結果、子どもたちがつくった地図も、適度にいい加減で、ちょっと踏み外した感じが面白い。偶然だが、女の子がつけた地図のタイトル「味のある…」がしっくりとくる。今度は、そこから先に何ができるかだ。

「子どもが育つとき」シリーズでは、1回目に特集した地域で応援し合う福祉・教育の仕組みや、2回目の身近な場所での多様な体験など、その「動き」を生み出すことを捉えてきた。そして、それら分野や世代、あるいは地域をこえて「動き」をつなぐことはできないか、子どもたちの感覚に立ち返りながら考えてみた。まだまだまとまってもいないし、的確なヒントが出てきたとも言い難い。しかし、今回は、西成やその周辺にフィールドを広げながら、レポートしてきた。今後も、徐々に子どもたちの育つときの種を広げていきたい。

（平川）

※お詫びと訂正
前号（2014年8月号vol.90）の特集「子どもが育つとき2」におきまして、プロフィールの記載に誤りがありました。明神氏にはお詫びするとともに訂正いたします。
p.3（誤）明神久　（正）明神智久

[平川隆啓]最近のもやもやの一つ。広島の土砂災害、実家のほど近くでの出来事で複雑な思いに。わくわくの一つ。これを書いている時点でカープが2位に浮上！

大阪の南、西成とその周辺の味わい深いまちの魅力を掘り下げつつ、地図に重ねていく「サウスオブミナミ」。雑多なカルチャーの集積地サウスオブミナミの深層にちょっと触れながら地図を描いていきます。

サウスオブミナミ

vol.16

子どもが見たまち

遊んで、動いて、飛び込んできた瞬間を受け止めながら激写。子どもの低い目線と、臨場感が特徴的。まちをカタチで見るのではなく体験で感じているのが伝わってきます。そんな、子どもたちがカメラで撮ったまちがこちら。

K-1
私は今この道を歩いています！

K-2
ガードマンと落ちそうな水筒

K-3
ジャングルジムからダイブ！

K-4
上を向いて歩こう！今日はくもり空

K-5
暗いけど、、、カラフルな壁面

K-6
散歩中の犬こまきに、こんにちは

K-7
ふさふさこまきをなでてひと休み

K-8
近所を冒険したストーリー満載の地図

子どもが見たまち、大人が見たまち

今回のサウスオブミナミは、特集と連動企画！しかも、西成を一歩踏み出し、お隣の阿倍野へ。子どもたちとまちを探検した「あべのま」のある「共立通」を紹介します。子どもの視点と、大人の視点の違いを見比べながら、いつもとは見方がきっと違う、子どもたちが日々感じているまちの様子を切り取っていきます。

大人が見たまち

ついつい私たちの癖で、建物や景色に目がいきがち。しかし共立通は緑が多く、地蔵や手押しポンプなどのアイテムや、それぞれ特徴的な軒先など、道がおもしろい空間に。

O-1
格子にさざえの殻が、何かのおまじない？

O-2
軒先に植栽がたくさん、涼しげな道

O-3
ジャングルの向こうにハルカス！？

O-4
なぜか数多く残っている手押しポンプと井戸

O-5
低い軒が連なり、やさしいスケールの長屋

O-6
暮らしのすぐそばにお地蔵さん

O-7
高いのはハルカスだけじゃない、風呂屋の煙突

O-8
道が折れ曲がった所に店が集まりスポットに

text・photo：Hirakawa Takaaki／illust：hidarimaki・chiyoko

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.06 ナイス薬局　長橋店

次の10年にむけて

〝地域のかかりつけ薬局をめざし、地域の方々の健康に少しでも貢献できれば〟と始めたナイス薬局は12年目を迎えました。ツルミ診療所の移転に伴い、増井マンションから現在地への移転もありましたが、みなさんに支えられここまでやってきました。そんなナイス薬局もこの12月に大きなチャレンジをスタートさせます。それは、浪速生野病院の移転に伴う、2店舗目の大国町店のオープンです。

次の10年に向け順風満帆にもみえますが、医療業界は逆風が吹き荒れています。少子高齢化に伴う〝医療費の増大〟〝財源の枯渇〟などにより、医療保険制度をはじめとする社会保障の立て直しは国の必須の課題です。医療は検査や治療、そしてお薬にいたるまで、国が金額を細かく設定し、毎年見直されています。その単価も医療費抑制という目的から、安くなりつづけ、廃業を余儀なくされる病院も少なくありません。みなさんも耳にしたことがあるジェネリック医薬品は特許の切れた後発の安価な薬で、国も利用を推奨しています。残念ながら治療上有益な新薬は、莫大な開発費がかかりどうしても高価になります。

ナイス薬局も手探りの中、患者さまの健康と病状をふまえ、過剰な医療にならない適切な医療の提供に努めていますが、医療業界の先行きは不透明です。新しい地域での1からのスタートですが、大国町店でも長橋店と変わらず、地域に根ざしながら患者さまに愛されるかかりつけ薬局を目指し、10年後にこのチャレンジが〝逆風満帆〟だったと思えるようにがんばりますので、みなさんよろしくお願いします。

（藤村　英樹）

ナイス薬局　長橋店
〒557-0025 大阪市西成区長橋2-6-31
TEL：06-4392-0713
FAX：06-4392-1189

[四井恵介]先日、横浜中華街で最終の新幹線ギリギリまで食事して帰ろうとしたら、横浜球場の試合終わりの交通規制にかち合って新幹線を逃すという初めての経験。

[飯田沙保里]先日の大雨で初めて「避難準備」というものを体験しました。少し離れた同じ市では「避難指示」がでていて、改めて「緊急事態」について考えさせられました。

いい湯かげん

西成特区構想は迫力がある

橋下市長自身が出席する8月の西成区政会議を録画で見た。テレビの橋下市長と違って、あまり喋らなかったし、淡々とした語り口だったが、ボクにはストーンと腹に落ちる内容だった。第一に、懸案のあいりん総合センター問題について、「日雇い市場はなくさない」「センターは縮小するが存続し、地域内の適当な場所に移転する」「移転後のあるべき姿は住民の意見を尊重し決定する」と明快に語った。9月から12月にかけて、住民による「大会議」をやると発表した。第二に、跡地の再開発などについても、「オールクリアランスはやらない。課題を解決しながら、流入を呼び込めるまちづくりの中で活かしていく」と明快だった。鈴木亘特別顧問は、「何をやるか」ではなく「どうやるか」が西成特区構想だと捕捉した。第三に、「ボクが市長になって西成区は変わり始めたが、ボクがいなくなると元に戻るのがこれまでの市政だった。元に戻さない筋道を住民の手で創って欲しい」という主旨を述べた。そのための「大会議」だと暗示し、ボールを住民に投げ返したわけで、なかなかの手腕だと感心した。鈴木さんや臣永区長が橋渡しをして、あいりん地区に確かな住民のアクションが育ってきたことをちゃんと市長が認めたからだろうが、よくここまで関係者の息が合ってきたものだと、羨ましくも感じた。願わくば、西成特区構想のように「都市生活産業」を興していけば、「都市間競争」を徒に煽らなくても大阪市は再生できると言ってくれたら、もう百点だとも思った。大阪都構想をぶち上げても、まずは「区」を強くすることだとボールを投げてくれたら、事態はいまのようにはなっていないのにと、悔やみもした。大阪維新の会がやっと「特別区」のマニフェストを発表したが、どうしたことか、うんと大人しい当たり障りのないものでがっかりしたが、やっぱり、この政党は橋下さん頼みなんだなぁと合点もした。

ずっと昔、同和行政が高揚していた頃、同和地区周辺の地域の人が感じておられただろうある種の羨望感や「ヤキモチ」みたいな感情を、いまボク達があいりん地区に持っているのだろう。いや、政治家(市長)が、皆さんもあいりん地区のように語り合おうと諭してくれたら、あいりん問題の解決は、当初の予想を超えたような広がりと深まりをもたらしてくれるかもしれない。橋下さんは、こういう臨場感というかダイナミズムは、「霞ヶ関や中之島など上からやっても絶対にできるものではない」という主旨のことも述べた。ボク達も、あいりん地区が葛藤する孤立や排除の問題、福祉と経済の好循環の問題、住民の市場参加の問題などに、自分たちの地域を見据えながら取り組んでいくことになる。そう考えると、すぐに「特別区」に再編しなくても、西成区のままでやってみたいとも思う。

㈱ナイス代表取締役
冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[田岡秀朋]某局の２４時間番組前日、友人Y氏が富士山の登頂に成功。登り8時間・下り4時間でガイドヘルパーのS氏と共に。おめでとう〜。

[近藤彩]最近別のお仕事で京都のお寺に伺いました。静謐という言葉がとてもよく似合う空間でしたが、貸し切りということもあって、休憩時間にはみんなたたみに寝ころんで、夏休みの実家と化していました。

ある日のROW

今月の花：
りんどう（竜胆）

花言葉「勝利を確信する」「誠実」「正義」

この花は、病気に勝つことができる霊草です。効き目の高い漢方薬としても重宝されています。

2、3日に一度お花を1個買ってくれるおじさんの姿を、もう1カ月以上見ません。

いつも小学校の前のポストの下にお花を植えて育てていたおじさんです。べろべろに酔っぱらって「お酒」にするか、「お花」にするか悩んだ挙句「お花」を買ってくれます。入院でもしたのかなと心配しています。（なんばひとみ）

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『寝冷えしちゃったワン！』

ソファーでごろんと寝ていると
ピーピッピーと音がした。
私は何の音？って
おすわりをした。
そしてまたグルグルグーと
音がした。
私は周りを見渡した。
またまたキューキューキュと
音がした。
私はあれ？って首をかしげた。
それを見ていたお母さんが
「ピースのお腹はにぎやかね！」
と私のお腹に耳をあてた。
その夜から私は腹巻きをして
寝ることになりましたワンワン。

赤井まゆみ

枝葉末節

『69』

Hidarmakiです。
9月もやっぱり一句投じます。
こんな暑気
比べもなさぬ
原爆忌

昨年12月に「69歳の誕生日おめでとう」というメッセージをもらったのが発端だった。メールに刻まれた69の数字だけが妙に意味を持つように見えた。「そうか、俺は69歳なんや」とつぶやいたか、じっと沈黙していたかはもう忘れた。視覚上で強烈な印象を与えられたのは確かで、それは68や67の誕生日には感じなかった実感であった。次にくる数字が、70というとてつもない老齢のモンスターを想像したのだ。

今夏の前後から現在に至るまで新聞の見出しや記事に、比較的たくさんの69という活字が散見された。ふだんから自分の年齢などを気にすることはなかったが、それがこの頃から特別な記号になったのだ。「沖縄戦69年」「広島・長崎の原爆投下から69年」「69年後の韓国慰安婦問題」などなど、私の年齢は、敗戦国日本の69年という歴史と一緒にあった。

私が生まれたのは1944年12月だ。日本帝国はしつこく戦争を続けていた頃であった。

この年4月には人間魚雷「回転」が作られ、5月に日本では、米軍の空襲で民家などの類焼を避けるため、「疎開工事挺身隊」を結成し、家屋を倒壊させて道路拡幅工事が施行されはじめる。現在生野区から東成区を通る市道を、私たちは疎開道路と呼んでいた。これらの作業には中学生以上の生徒たちも動員され、45年広島市内の原爆投下時に多くの学徒が犠牲になっている。6月には英米仏の連合軍が、ノルマンディー上陸作戦でナチスドイツを駆逐し、7月にはサイパンやグアム島では日本兵すべてが米軍の攻撃の前に玉砕した。国内では学童の集団疎開が始まっていた。しかし、身体に障害を持つ肢体不自由児たちは、国の役には立たずという理由で措置不要とされ、空襲の恐怖にさらされたことを先日のTV特番で知った。戦中こんな人でなしの条例が東京で認められていた。8月にはインパールでも日本軍は米中連合軍によって全滅させられ、オランダのアムステルダムではアンネ・フランクがゲシュタポに拉致され収容所送りになっていた。私には、中学校の映画鑑賞の授業で「アンネの日記」を見たその恐怖が今も残っている。9月には米軍の掃討でペリリュー島、テニアン島の日本軍が全滅。10月には、青年たちが国体護持のために身体を張った残酷な神風特別攻撃隊の出撃が始まり、11月、ついに東京が空襲を受けることになる。

私のあずかり知らぬことだが、母の胎内に潜んでいたあいだには、世界のあちこちが、蜂の巣をつついたような大騒ぎになっていたようなのだった。12月にめでたくこの世に誕生した私は、しかし、そのときの瞬間を覚えていない。オギャッのひと声ぐらいは景気づけに叫んだとは思うが、もちろんそんなことも記憶にない。

誕生後の1945年1月、ソ連軍がアウシュビッツ収容所を解放し、2月には英米ソの首脳が集まり、現在紛争中のウクライナ共和国ではヤルタ会談が行われ、ドイツ敗北後の管理体制や、国際連合の召集を検討していた。そしてここでソ連の対日参戦が決定した。この時期に樺太・千島列島がソ連返還と決まる。3月には米軍は再び東京への大空襲を行い、十万都民が殺戮された。空爆はその後、本土各地を荒廃させ続ける。私自身に戦争経験はないものの、住んでいた東住吉区田辺には、まだ空襲で焼け残った民家が放置され、そのままにされた防空壕が私たち小学生の遊び場でもあった。

そして、米軍の沖縄侵攻のために上陸作戦が行われ、6月に全島が制圧されてしまう。沖縄の犠牲者は非戦闘員が十数万、兵士、義勇軍が十数万を超える大虐殺となった。ひめゆり隊やおとひめ隊など看護女学生や鉄血勤皇隊に参加した少年たちの多くが自決したり殺害された。4月にヒトラーが自決し、5月にはソ連軍がベルリンを占領してドイツ帝国は壊滅した。7月にトルーマン、スターリン、チャーチル三国の首脳たちがドイツのポツダムで会談し、軍国主義の駆逐、日本軍の武装解除、戦争犯罪人の裁判、日本の平和と経済の維持などを条件とするポツダム宣言を発表した。8月6、9日両日米軍機による広島、長崎に原爆が落とされ、非戦闘員たち数十万人が残酷な殺され方をした。アメリカからはいまだその謝罪がない。それどころか駐留していた米兵に、私たち少年少女たちは「ギブ・ミー・チョコ」などと他愛なく笑顔でたわむれ、彼らを取り囲んでは見知らぬ国の菓子をねだっていた。ただし邦画の戦争映画（写真は45年製作の東宝映画）などを見ては、米軍をやっつける場面で熱狂もしていたのだ。

（'89年刊『昭和史全記録』〈毎日新聞社〉参考）

hidarimaki

思いたったら！ にしなりカレンダー

「西成＋α！いろんな地域で体験」編

天神ノ森かいわい

「あおぞらアトリエ」いろいろ教室

『ティンちゃんのベトナム料理教室（生春巻編）』

本場の生春巻＋プチデザートをつくろう。

日時：9月18日（木）11:00-13:00
参加：￥2,000（生春巻＋プチデザート付 定員10名）
問合：あおぞらアトリエ（西成区岸里東1-11-19）
TEL：06-7503-4618
WEB：http://aozora-atelier.com/

「ユーニ：ノイ uni:neu」リニューアル

『ことこと散歩＊雑貨市』

10年目のリニューアル。第一弾イベントは雑貨市！

日時：9月4日（火）-29日（土）
問合：ユーニ：ノイ（西成区岸里東2-1-1）
TEL：06-6651-3390
WEB：http://unineu.cocolog-nifty.com/

天下茶屋かいわい

第二回オリ天バル

『西成街おこし企画「オリ天バル～西成のええ店はしご酒!!～」』

第二回目となる西成・天下茶屋のまちバルイベント。西成区にある美味しい、楽しい、温かいお店をみんなに知ってもらいたい想いで立ち上げられた街おこし企画！

日時：10月2日（木）、3日（金）、4日（土）
場所：天下茶屋かいわい
WEB：http://oriten-bar.com/

『オリ天音楽祭』

音楽祭も同時開催！気持ちいい音楽を聞いて、テンション高い状態でバルをまわろう！

日時：10月3日（金）17:30-21:00
参加：￥500（バルチケット1枚付）
場所：西成区民センター（西成区岸里1-1-50）

阿倍野かいわい

TACT/FEST

大阪国際児童青少年アートフェスティバル(TACT/FEST)は、子どもと大人をつなぐ演劇とアートのフェスティバル。2007年にスタート。アートの領域を拡大しながら、どこにもない"Art Festival for Kids"を目指して今年も開催。

日時：9月9日（火）-21日（日）※詳細は、WEB等で
会場：大阪市立阿倍野区民センター、オーバルシアター、近鉄アート館、天王寺ミオ・ミオホール、ナレッジシアター、他
問合：TACT/FEST 公演事務局
（天王寺区堀越町8-15 吉田ビル2F）
TEL：06-6710-4599（平日13:00-17:00）
FAX：06-6772-5472
MAIL：contact@tact-japan.net
WEB：http://www.tact-japan.net/
主催：大阪国際児童青少年アートフェスティバル実行委員会

大阪かいわい

特別展「ネコと見つける都市の自然―家の中から公園さんぽ―」

大阪市立自然史博物館で、都市の生きものの暮らしと変遷を、ネコの目線で考える特別展。都市の自然を再発見するチャンス。身近な暮らしにも、西成のまちにも、豊かな自然がいっぱいあるはず！

日時：7月19日（土）-10月13日（月・祝）
9:30-17:00
※休館日：毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）
観覧：大人500円　高大生300円
場所：大阪市立自然史博物館（東住吉区長居公園1-23）
TEL：06-6697-6221
FAX：06-6697-6225
WEB：http://www.mus-nh.city.osaka.jp/
主催：大阪市立自然史博物館

あとがき

07年1月に創刊号を発刊し、おかげさま先月で90号に達しました。約8年間、なび編集にはこれまでたくさんの人の協力を得てきました。また読者の激励にも励まされてきました。ここで、皆さんには大いなる感謝をお伝えいたします。

私たちは地域に根づく伝統や文化、さまざまな活動に関わる人たちを求め、情報探しにつとめています。興味深い情報があれば教えください。

（佐々木 敏明）

なび9月号（vol.91）
発行日：2014年9月10日（創刊日：2007年1月1日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 冨田一幸
印刷：有限会社前山企広
住所：大阪市西成区長橋3-6-33　電話：06-6563-1156
E-mail：info@nice.ne.jp
url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敏明
編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里
イラスト：hidarimaki
デザイン：近藤彩、高橋静香

表紙の写真：「円満会での地蔵盆」西成区太子で撮影